

国

語

(解答番号)

1

5

35

第4問 次の文章を読んで、後の問い(問1〜6)に答えよ。(設問の都合で送り仮名を省いたところがある。)(配点 50)

(注1)

胡子夜臥、有鼠嚙于案、其声磔磔然。胡子懼鼠之傷其

(注2)

書也、乃暗投以杖。杖不能中鼠。鼠暫止而復作。遂命童子

起而逐之。鼠稍竄去。及童子就枕、鼠復嚙不已。時狸奴乳

別室。胡子度鼠之不能去也、於是命童子取狸奴置臥内。

由是向之磔磔者寂不聞矣。噫、人非不靈於鼠、制鼠不能

於人而能於狸奴。狸奴非靈於人、鼠畏狸奴而不畏人。然

則彼各有職也。君子居其職者、亦尽其職而已矣。

(胡儼『胡祭酒集』による)

(注) 1 胡子——この文章の筆者胡儼の自称。 2 磔磔——鼠がかじる音。

3 童子——召使いの少年。 4 狸奴——猫の別称。 5 臥内——寢室。

問1 傍線部(1)「遂」・(2)「度」の読み方として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解

答番号は

28

29

(1)

28 遂

- ⑤ ④ ③ ② ①  
ただちに ことに さらに すでに つひに

(2)

29 度

- ⑤ ④ ③ ② ①  
うれふる みる はかる わたる おそるる

問2 波線部(ア)「復作」・(イ)「復嚙」とあるが、その前後の状況を説明したものととして最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 30 ・ 31。

(ア) 復作

30

- ① たとえ当たらなくても、しばらくは鼠がかじるのをやめるので、胡子は再度杖を投げつけた。
- ② 投げつけられた杖をうまくかわすことができたので、鼠はただちに以前のようにかじり始めた。
- ③ 杖が当たらないとわかると、鼠は逃げることをやめて、すぐにまたかじりだした。
- ④ 杖を投げつけられて、鼠はわずかの間かじるのをやめたが、ふたたびかじり始めた。
- ⑤ 杖は一度目は当たらなかったが、鼠が動きをとめたのをねらって、胡子はまた杖を投げつけた。

(イ) 復嚙

31

- ① 鼠はようやく童子の追及から逃れたが、童子が寝たふりをすると、また何かをかじり始めた。
- ② 童子に追われた鼠は枕のかげに隠れたが、童子が枕に近づこうとすると、童子にふたたびかみついた。
- ③ 鼠はしばらく様子をうかがっていたが、童子が寝つくのを見届けると、また童子の枕をかじった。
- ④ 胡子は童子に鼠を追い払うよう命じたが、童子は眠ったままだったので、鼠はさらにかじり続けた。
- ⑤ 鼠はひとまず身を隠していたが、鼠を追い払っていた童子が寝ると、ふたたびかじりだした。

問3 傍線部A「命<sub>ニ</sub>童子<sub>一</sub>取<sub>ニ</sub>狸<sub>一</sub>奴<sub>一</sub>置<sub>ニ</sub>臥内<sub>一</sub>」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 32。

- ① 童子が胡子の猫を受け取って、寝室の中へ閉じ込めた。
- ② 童子が胡子の猫をけしかけて、寝室の鼠を捕まえさせた。
- ③ 胡子が童子に指示して、寝室の中で猫を捕まえさせた。
- ④ 胡子が童子の猫をけしかけて、寝室の鼠を捕まえさせた。
- ⑤ 胡子が童子に指示して、飼っていた猫を寝室に移させた。

問4 傍線部B「寂<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>聞<sub>一</sub>矣」という表現から、この夜の出来事は結局どのような終息したことがわかるか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 33。

- ① 鼠の鳴き声がしなくなって、胡子がかえってさびしくなった。
- ② 鼠がいなくなって、胡子はようやく安眠できるようになった。
- ③ 鼠を追って猫もいなくなり、やっと別室は物音がしなくなった。
- ④ 鼠も猫も眠ってしまったので、童子も安心して床に就いた。
- ⑤ 鼠のかじる音は聞こえなくなり、猫も別室から出て行った。

問5 傍線部C「人非<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>靈<sub>ニ</sub>於<sub>二</sub>鼠<sub>一</sub>、制<sub>レ</sub>鼠<sub>ニ</sub>不<sub>レ</sub>能<sub>ニ</sub>於<sub>二</sub>人<sub>一</sub>而能<sub>ニ</sub>於<sub>二</sub>狸奴<sub>一</sub>」とあるが、どのようなことを言っているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 34。

- ① 人間は鼠よりも賢くすぐれているのだが、鼠をおさえることができるのは、人間ではなくて猫である。
- ② 人間は鼠ほどすばしこくないので、猫を利用するのだから、鼠を追い出すことができない。
- ③ 人間は鼠よりも知能が発達しているのだが、猫を飼いなすようには、鼠を飼いなすことはできない。
- ④ 人間は霊長類の最たるものなのだが、現実に鼠を支配することができるのは、人間ではなくて猫である。
- ⑤ 人間は鼠ほどずる賢くはないので、猫を捕まえることはできても、鼠を捕まえることまではできない。

問6 筆者の主張を説明したものととして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 35。

- ① 鼠を捕まえる猫も、鼠のいる部屋に置かなければ役に立たない。君子は、それぞれの能力と限界を見きわめて、適材を適所に配置するものだ。
- ② 人には人の、猫には猫の、それぞれ能力や本分がある。君子は、自分の役割をよく心得て、それを十分やりとげるように努めるものだ。
- ③ 鼠を遠ざけるには、杖を投げるよりも猫を用いたほうがよい。君子は、手段とその効果をよく見きわめて、最も効果的な方策を選ぶものだ。
- ④ 杖には杖の使い道があり、鼠を追い払うために使うものではない。君子は、道具の使い道をよくわきまえて、適切な使い方をするものだ。
- ⑤ 人間は、他の動物の上に立つ存在である。君子は、それぞれの動物の特性を活かして、その能力を十分に発揮させるようにするものだ。